

# 検査だより

～骨の生活習慣病 骨粗鬆症～



骨粗鬆症とは、骨の強度が低下して、骨折しやすくなる骨の病気の事です。

骨がもろくなると、つまずいて手や肘をついた、くしゃみをした、などのわずかな衝撃で骨折してしまうことがあります。

骨粗鬆症は痛みなどの自覚症状がないことが多く、定期的に骨密度検査を受けるなど、日ごろから細やかなチェックが必要です。今回は、検査技師の観点より、採血・検尿に焦点を当ててみていきます。

## 骨粗鬆症の採血・採尿検査って・・・？

骨粗代謝マーカーというものを調べます。(治療モニタリングとしても使用)

骨吸収マーカー；骨がもろくなっていく数値を示す	骨形成マーカー；骨が作られる数値を示す
<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>骨型酒石酸抵抗性酸性フォスファターゼ(TRACP-5b)</b></li> <li>・<u>デオキシピリジノリン (DPD)</u></li> <li>・I型コラーゲン架橋N-テロペプチド (NTx)</li> <li>・1型コラーゲンC末端架橋テロペプチド (1CTP)</li> <li>・尿中のピリジノリン (PYD)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>1型プロコラーゲンN末端ペプチド (P1NP)</b></li> <li>・オステオカルシン (OC)</li> <li>・1型プロコラーゲンC末端ペプチド (P1CP)</li> <li>・血清骨型アルカリフォスファターゼ (BAP)</li> </ul>

\*赤字：現在当院採血セット組みされている項目      \_\_\_\_\_以前セット組みされていた項目

今年、2月より当院採血セット項目の尿中DPDが **TRACP-5b** へと変更となりました。

## 尿中DPDも TRACP-5b も両方骨吸収マーカーであり、その違いは・・・？

	検体	日内変動	腎機能	その他
尿中DPD	尿	あり <small>(夜間～午前中：高値 午後：低値 午前中第2尿が望ましい)</small>	影響あり <small>(クレアチニン補正必要)</small>	食事の影響なし
TRACP-5b	血清(絶凍)	なし	影響なし	食事の影響なし 採尿の手間がない

\*絶凍：採血した血液を凝固させ、遠心分離し、血清を凍結

これらの検査によって、将来的に骨がどれくらい減少するのか、骨折のリスクがどれくらいなのか、薬はどの程度、どの時期に、どれが良いのか、等様々なことが読み取れます。

骨吸収の値が高い場合、骨密度が低下していることが分かり、骨折リスクが高くなってきます。

治療として、薬物治療をするなど、必要な対処もわかります。

骨粗鬆症は、日ごろの運動・食生活により予防する(骨を強くする)ことができます。  
意識して骨粗鬆症予防に努めましょう。